

2019年度 大学全体 自己点検・評価報告書

[第9章] 社会連携・社会貢献

9.1. 現状説明

9.1.1. 大学の教育研究成果を適切に社会に還元するための社会連携・社会貢献に関する方針を明示しているか。

評価の視点1：建学の精神に基づいた教育理念及び各学部・研究科の目的を踏まえ、社会連携・社会貢献に関する方針を適切に明示しているか。

本学は、建学100周年に向けた25年間にわたる学園の総合戦略として、学校法人東海大学学園マスタープラン「TOKAI CENTENARY PLAN ～ Voyage to 2042 ～」（以下、学園マスタープラン）を策定した（資料A-11）。この学園マスタープランにおいて、学園の高等教育部門である東海大学の中期的な目標の基本方針をQuality of Life（QOL）の向上と定め、健やかな社会構築に向けて、教育・研究・連携をはじめとする諸活動を通じ、QOLの向上に対し積極的に取り組むことを掲げている。また、連携活動に関する行動目標として、「産学・地域・国際等の連携活動の実践」を定め、日々の連携活動に取り組んでいる。

上記、学園マスタープランは教職員専用Webサイトである「学園コミュニティ」で学園内教職員向けにおいても公表し、中期目標は東海大学オフィシャルサイトで公表しているため、社会連携・社会貢献に関する方針を適切に明示している（資料A-12）。

9.1.2. 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。

評価の視点1：社会連携・社会貢献を推進するにあたり、学外組織との連携体制を適切に構築しているか。

評価の視点2：社会連携・社会貢献に関する活動において、教育研究活動の推進が図られているか。

評価の視点3：地域交流、国際交流事業への参加が行われているか。

[社会連携活動]

平成25年度文部科学省「地（知）の拠点整備事業」補助対象期間終了後も社会連携活動は各キャンパスに根付く形で変化を遂げ、キャンパスの立地や特性を生かし、地域に開かれた大学を目指す「キャンパス大学開放事業」を全校舎（伊勢原校舎を除く）で実施した。特に湘南校舎で行われた「TOKAI グローカルフェスタ」（資料I-1）では、協定を締結している自治体や協賛企業等からのブース出展や多世代交流機会創出を目指したグラウンド・ゴルフ大会を同時開催するなど、地域住民に大学の知を還元するとともに地域住民や自治体、企業と連携した取り組みが進められた。

以上の点から、学外組織との適切な連携体制を構築し、社会連携・社会貢献に関する活動による教育研究活動を推進し、地域交流、国際交流事業へ積極的な参加を行った。

〔産官学連携活動〕

1. 知的財産保護・技術移転活動

知的財産保護・技術移転活動の実績は、資料 I-2 表 1～7 のとおりである（資料 I-2）。知的財産権の事務処理件数は、特許 269 件、商標は 1 件（登録）、意匠は 5 件（新規出願 1 件、登録 4 件）、であった。保有件数は 343 件（国内 231 件、PCT・外国 112 件）で、前年比 18 件増となった。知財関係の収支は、収入；約 692 万円（内、実施料等収入として約 662 万円、他機関からの清算額等として約 30 万円）、支出；約 1,369 万円となり、約 677 万円の支出超過となった。

新規実施・技術移転（譲渡）契約の成約は 10 件、新規国内出願は 28 件、直接国際出願は 2 件（いずれも優先権主張）、新規出願相談は 43 件であった（資料 I-2）。

2. 研究成果の広報・周知活動

研究成果の広報・周知活動の実績は、資料 I-2 表 7 のとおりである。本学が主催する産学連携フォーラム及び「農・食・健」QOLセミナー（1 回）、産学連携機関が主催する展示会への出展活動（13 回）を行った。QOLセミナーは、農学部・健康学部・海洋学部から、「農学・食・健康」をキーワードにした研究成果や知見を発表することで、農業・水産業・食品加工関連業・健康産業等に携わる企業や自治体との連携研究等のマッチングを図ることを目的として開催した。今後も引き続き開催する計画である（資料 I-2）。

3. 産官学連携活動による教育研究成果の還元

組織的産官学連携活動を通じた具体的な研究成果還元施策として、本学研究資源の理解を深めるために、2004 年度から企業・産学連携機関の方々を対象に「産学連携フェア」を開催してきた。産学連携団体等が主催する多くの技術展示会にも積極的に参加して研究成果の発信を行っている。

これら広報活動は、技術移転による特許等知的財産権の活用、共同研究・委託研究・学術研究寄付による新たな知の創造、研究員・研修員などの受け入れによる研究者の育成を目指すものであり、各年度の産学連携の実績は、文部科学省 Web サイトにおいて「大学等における産学連携等実施状況について」、「大学ファクトブック」（資料 I-3）として公開されている。

〔国際連携活動〕

本学では、建学以来、国際的な恒久平和の実現への貢献を目的とした国際連携、国際交流活動を展開しており、近年は海外諸国の人材育成に力を入れている。特に理工系分野を中心にサウジアラビア王国、アラブ首長国連邦、カタール国、トルクメニスタン、クウェート国、タイ王国等からの外国政府奨学生を継続的に受け入れ、新たな国際連携プログラムや留学生数の増加に繋げている（資料 I-4）。

2018 年度からは、サウジアラビアの MiSK 財団と連携し、同国の学生を対象にした研修プログラム「Hands-on Training Program for Electric Car Project」を実施している。このプログラムでは、電気自動車を中心とする幅広いエンジニアリングに関する知識とスキルを実践的に身につけることを目的としている。2019 年度は、同国内 8 大学、米国 6 大学、英国 1 大学から、電気工学や機械工学、コンピュータエンジニアリングなどを学ぶ 23 名が参加した（資料 I-5）。

また、IAEA（国際原子力機関）と本学が 2018 年度に締結した「原子力安全教育分野にお

ける実施協定」に基づき、2020年2月に「IAEA国際スクール：原子力・放射線安全リーダーシップ」を実施した。本スクールは、IAEAが2017年10月から原子力・放射線分野の安全利用を担う次世代リーダーの育成を目的に世界各国で行っている研修プログラムで、今回日本で初開催となった。インドネシアやマレーシア、フィリピンのほか、日本の企業や研究機関から29名が参加し、ケーススタディやゲーム形式の演習など、ロールプレイ体験を通じ、IAEA標準の安全最優先の知識を養った（資料I-6、I-7）。

更に、本学は総合大学としての知見を結集し、世界中の人々の暮らしや社会のQOL向上を目指している。その国際連携事業の一例としては、文部科学省平成29年度大学教育再生戦略推進費「大学の世界展開力強化事業～ロシア、インド等との大学間交流形成支援」に、「ライフケア分野における日露ブリッジ人材育成—主に極東地域の経済発展を目的として—」が採択されており、ロシアの大学の学生との海外研修プログラム、中期・長期交換プログラム、健診人材実務者研修などのプログラムを実施した（資料I-8）。本プログラムの実施により、ロシア人留学生数は2017年の5名に対し、2019年は25名と400%増加した（資料I-9）（資料I-10）。

【国際連携活動による教育研究成果の還元】

本学の国際連携の基本は、1965年から脈々と続けられている我が国政府の国際協力案件に対する技術協力や人材育成への積極的な参加にある。これにより培われた経験と成果は、近年、外国政府からの要請に基づく教育・訓練プログラムの受託・運営、各国政府及び外国企業からの奨学生受け入れの量的拡大に現れている。特に我が国の科学技術開発及び教育を高く評価する中東諸国の政府・企業との連携の強化は、本学が目指す人間と科学技術の調和を基調とした、教育と研究を通じた世界平和の実現という本学のミッションと国際戦略に適うものである。2009年に国際教育センター設置以降、国際戦略本部と連動した国際連携活動の実践により、外国人留学生が増加傾向にある。2009年の外国人留学生は、37カ国533名（資料I-11）に対し、2019年は49ヶ国1,133名と113%増加した（資料I-10）。

なお、本学の教育研究成果は、デンマーク（コペンハーゲン）、オーストリア（ウィーン）、タイ（バンコク）、韓国（ソウル）、米国（ハワイ）、ロシア（ウラジオストク）にもつ本学独自の海外拠点を通じ、全世界規模で発信されている（資料I-12）。

また、国際競争力を強化し、ブランド力を高めるための情報収集を行い、ランキングを獲得するなど、グローバル・ユニバーシティ化を推進した（資料I-13）（資料I-14）。

9.1.3. 社会連携・社会貢献の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

評価の視点1：社会連携・社会貢献の適切性について、適切な根拠（資料、情報）に基づき定期的に点検・評価を行っているか。

評価の視点2：自己点検・評価結果に基づいた改善・向上が行われているか。

[社会連携活動]

現在の取り組みとして、特にイベント開催時には来場者アンケートにより来場者の満足度や希望事項を調査している。2019年度に開催した「TOKAI グローカルフェスタ」においても来場者アンケート実施し、その結果を「TOKAI グローカルフェスタ 2019 来場者アン

ケート集計結果」（資料 I-15）として取り纏めた。この結果から、「TOKAI グローカルフェスタ」には平塚市と秦野市からの来場者が多く、二市からの来場者で全体の四分之三を占めており、開催周知媒体としては「学校等で配付したチラシ」が非常に有効に機能していることが確認された。また、来場者満足度が高い企画として、体験型企画が高評価を得ていることが確認された。これらのアンケート結果を、次回企画の更なる充実に向けた検討材料にすることとしている。

〔産学連携活動〕

本学の知的財産の創出並びに維持管理については、「学校法人東海大学知的財産憲章」でその基本的な考えを示し、学園マスタープラン並びに中期計画を定めて執り行っている。具体的な目標として、「産学連携ビジョン」（資料 I-16）を策定し、これに基づく活動を行っている。このビジョンは毎年度、学部長会議において審議の上、策定している。策定の際、前年度の活動を元に当該年度のビジョンとして数値目標等の見直しを行うことで、実務や社会ニーズに即した活動を実行すると共に、その積み重ねによって中期目標の達成を目指している。

〔国際連携活動〕

IAEA 国際スクール修了後には、参加者にアンケートを実施し、評価や改善点を取りまとめて次年度の開催に向けた改善・向上を図っている（資料 I-17）。

2019 年度の世界展開力強化事業については、国内他大学との連携や交流プログラム実績等を報告書にまとめて周知している。また、大学評価委員会（規定により学長から任命された学内外の委員）を開催し、実施事業項目や成果、今後の事業計画について審議している（2019 年度は新型コロナウイルス流行に配慮し、開催延期）。2019 年度の事業成果については、文部科学省より「A（これまでの取り組みを維持することによって、事業目的を達成することが可能と判断される）」評価を受けた（資料 I-18）。

また、国際連携活動に関しては、海外連携委員会を開催し、第 I 期中期運営方針・事業計画に基づき、海外協定校の締結および更新等について審議を行っている。2019 年度は、合計 7 回開催した（資料 I-19、I-20）。

9.2. 長所・特色

社会連携においてはグローバルフェスタを開催し、地元自治体や企業等の参画を得て連携強化に取り組み、産学連携においては産学連携フェアを開催し、本学教員の研究成果の企業等への橋渡しに取り組み、国際連携においては「大学の世界展開力強化事業」として様々な施策に取り組むなど、いずれの連携活動においても、担当部署が積極的に学外機関・企業・団体等と連携し、それぞれの分野における連携活動に取り組み成果を上げている。

9.3. 問題点

各連携活動について、各部署による相互の点検・評価を実施するなどして担当部署による点検・評価のみでは気づかなかった改善点を洗い出すことにより、更なる充実の余地があると考えられる。

9.4. 全体のまとめ

社会連携活動の一環として取り組んだ「TOKAI グローカルフェスタ」に留学生が参加して地域からの参加者との交流を図るなど、「社会連携活動」と「国際連携活動」を連携させ成果の高度化を図る取り組みが進められている。また、「社会連携活動」と「産学連携活動」の連携を検討するなど、各部門による積極的な連携活動に加え「連携活動間の連携」などの新たな取り組みにチャレンジしており、今後の連携活動の充実を図る。

9.5. 根拠資料

- I-1 TOKAI グローカルフェスタ 2019 パンフレット
- I-2 添付資料（表 1-7）
- I-3 文部科学省 Web サイト「大学等における産学連携等実施状況について」、「大学ファクトブック」
https://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/sangaku/sangakub.htm
- I-4 2019 年度外国政府奨学生人数表
- I-5 東海大学 Web サイト「サウジアラビア王国の大学生を対象にした研修プログラムを実施しました」
https://www.u-tokai.ac.jp/international/news/detail/post_187.html
- I-6 東海大学 Web サイト「IAEA 国際スクール 原子力・放射線安全リーダーシップ」を日本で初めて開催しました」
https://www.u-tokai.ac.jp/international/news/detail/iaea_2.html
- I-7 IAEA Web サイト「Sharing Best Practices: IAEA Holds First International School of Leadership for Nuclear Safety in Japan」
<https://www.iaea.org/newscenter/news/sharing-best-practices-iaea-holds-first-international-school-of-leadership-for-nuclear-safety-in-japan>
- I-8 Web サイト「ライフケア分野における日露ブリッジ人材育成」
<http://www.russia.u-tokai.ac.jp/news/page/4/>
- I-9 2017 年度国籍別留学生人数表
- I-10 2019 年度国籍別留学生人数表
- I-11 2009 年度国籍別留学生人数表(2009 年 5 月 1 日現在)
- I-12 学校法人東海大学 Web サイト「海外拠点」
https://www.tokai.ac.jp/educational_facilities/oversea/
- I-13 東海大学 Web サイト「世界大学ランキングに本学がランクインしました」
https://www.u-tokai.ac.jp/international/news/detail/post_177.html
- I-14 東海大学 Web サイト「QS 世界大学ランキング（分野別）で私立大学 5 位になりました」
https://www.u-tokai.ac.jp/international/news/detail/post_239.html
- I-15 TOKAI グローカルフェスタ 2019 来場者アンケート集計結果
- I-16 東海大学の産学連携に関するビジョン 2020
- I-17 2019 年度 IAEA 国際スクールアンケート結果

- I-18 ライフケア分野における日露ブリッジ人材育成主に極東地域の経済発展を目的として [令和元年度（2019年度）事業報告書]
- I-19 東海大学海外連携委員会規程
- I-20 2019年度第1回グローバル推進本部関係委員会議事録 他